

「田舎に住みたい！…でもどうしたらいいの？」を解決します！

移住相談案内所

いすみ暮らしサロン



いすみ市を詳しく知りたい方は、移住相談案内所「いすみ暮らしサロン」へどうぞ！

いすみ市への移住や二地域居住をお考えの方が抱く様々な不安や疑問に対し、地域の事情に精通した移住相談員が、自身の知識や経験を生かしながら相談に応じるとともに、地域情報を提供します。

また、すでに移住された方々の情報交換や交流の場としてもご活用いただいています。

いすみ暮らしサロンのご案内

開設場所 千葉県いすみ市深堀1712-1 (hinode内)

TEL 0470-64-6757

開設時間 9:30~14:30

(毎週日曜日開設、年末年始・秋季祭礼時などを除く)

※市民と市職員が相談員として対応

※駐車場は大原海水浴場を利用してください

大原漁港「港の朝市」移住相談ブースのご案内

開設場所 大原漁港「港の朝市」

(千葉県いすみ市大原11574)

開設時間 8:00~12:00

(毎週日曜日開設、荒天時・年末年始・秋季祭礼時などを除く)

平日の移住相談窓口のご案内

開設場所 いすみ市役所大原庁舎3階 水産商工課

移住・創業支援室

開設時間 8:30~17:15

(土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始を除く)

TEL:0470-62-1332 メール:uji@city.isumi.lg.jp



いすみ市の情報はこちらからもご覧になれます

■いすみ市公式ホームページ <http://www.city.isumi.lg.jp>

■いすみ暮らし情報サイト <http://www.uji-isumi.com>

平成28年3月発行

●編集協力…鈴木三千絵、藤江信一郎、三星千絵、吉田滋子 (50音順) ●写真協力…國房魁 ●イラスト協力…和田慧子

●発行元…水産商工課 移住・創業支援室

〒298-8501 千葉県いすみ市大原7400-1 TEL:0470-62-1332 メール:uji@city.isumi.lg.jp

※掲載情報は平成29年8月再発行。内容については変更となる場合がありますのでご了承ください。

いすみ暮らし



いすみ 移住しませんか？

CONTENTS

移住者インタビュー
子どもを育てる
食を楽しむ
仕事を見つける
人とながる
いすみ市ってどんなところ？
いすみ市で暮らす
（育てる・支える・守る・住む・相談）
住まいに関する情報
移住にまつわるあれこれ
いすみで見る！食へる!!!

千葉県いすみ市
移住ガイドブック

01 北澤 蓉子さんご一家



【40代、5人家族、東京都渋谷区→いすみ市岬町桑田在住】
1999年にいすみ市へ転入してきた北澤さんご一家。自主保育サークル「やかましむら」を立ち上げ、子育て世代の母親が安心して子育てできる環境づくりに奔走しました。

◇**静養のためにいすみ市へ**
長年の都会暮らしで、鍼灸師の夫が過労でひどく体調を崩したため、「田舎で暮らしたら…」と考え始めるようになりました。そんな時に知人を通していすみ市で住居つきの仕事を紹介され、移り住むことになりました。現在、夫は地元の病院のリハビリ科に勤務するかわら、自宅でも鍼灸・手技療法等の治療を行っています。豊かな自然環境の中で夫もすっかり元気になり、近頃は子どもたちの通う小・中学校

のPTA役員を務めるなど、地域との交流も広がってきました。
◇**母親をサポートするネットワークづくり**
子どもたちが幼かった頃、私たちと同じ頃に移住してきたご家族の子どもさんを預かるようになったのがきっかけで、自主保育サークル「やかましむら」をスタートしました。周囲に知り合いがほとんどいない状態での子育ては、母親にとっては心細いものです。そうした母親をサポートするような家族的

なネットワークを作り、子どもたちに保育園ではできないような様々な体験をさせてあげられる特別な場として、「やかましむら」はだんだんと大きくなっていきました。その他にも、地域の子ども会やたんぼのがっこ、プレーパークなど、自然と親しみながら体験活動ができるフィールドがたくさんあり、3人の子どもたちはたくましく伸び伸びと成長しています。豊かな自然と地元の方々の大らかさや温かさは、無くてはならないものと感じています。



02 荒川 慎一さんご一家

【30代、3人家族、東京都渋谷区→いすみ市岬町押日在住】
ご夫婦ともに都会っ子の荒川さんご夫妻。田舎暮らしをしてみたいという憧れと、のびのびと子育てしたいという気持ちから、いすみ市へ移住。ご近所やご友人との繋がりを大切に、日々を楽しんでいます。

◇**「都会にはない暮らし」を求めて**
夫婦ともに都会の生活しかしたことがなかったため、昔から都会以外での暮らしに憧れがありました。いすみ市に先に移住していた友人宅に遊びに行った時に、いすみ市の素朴な雰囲気ですっかり気に入ってしまい、移住を決めました。妻がちょうど娘を妊娠したところで、広々とした田舎での子育てを目の当たりにしたことも移住を決めた理由のひとつです。

◇**人と人との繋がりの良さを感じる**
最初のうちは、妻はやはり慣れない環境と育児に対するストレスがあったようです。しかし出産前から近所の友人達が子育てに協力してくれて大変助かりました。友人を介してさらに別の人と親しくなったりしながら、ここにはお互いを助け合うような人間関係が自然な感覚としてあるということに気づきました。都内では、お金を払えば様々なサービスを利用することができますが、田舎ではその選択肢が限られています。しかし、それを補って余りある「人と人との繋がり」の良

さがいすみにはあって、その大切さを実感しています。今は、わいわいと家族ぐるみの付き合いの中で子育てを楽しんでいます。しかし自然が豊かな一方で、こちらには美術館で絵を観たり、音楽を聴いたりする場所や機会が少ないので、娘を連れて東京に出たりもしています。

※インタビュー当時の内容です。

子どもを育てる

03 渡邊 登さんご一家



【30代、4人家族、埼玉県草加市→いすみ市岬町押日在住】
登さんご夫婦と妹さん親子の4人で転入してきた渡邊さんご一家。妹さんの娘さんが就学するのを機に移住先を探し始めました。インターネットショップを運営する傍ら、地域行事などにも積極的に参加し、いすみ市での生活を楽しんでいます。

◇**安心して子育てできる場所を探して**
以前住んでいたところは車通りも多く、治安の面でも心配があったので、子どもを学校に通わせるなら田舎の方がいいな、と考えていました。初めは湘南や鎌倉あたりで移住先を探していましたが、別荘を持っている知人から勧められたこともあって房総も視野に入れて探すようになり、今住んでいる土地の購入が決まったので、いすみ市に移り住んできました。

◇**地域ぐるみの子育て**
都会と比べると、小学校は少人数で密な感じがします。仕事が忙しくて学校へ迎えに行けない時に、同級生のおじいちゃんが子どもを送ってきてくれたことがありました。地域の子どものことを地域ぐるみで見ているので、大変助かっています。かといって、必要以上に干渉するということではなく、ほど良い距離感を保って接してくれているので、とても人づきあいがしやすい地域だと思います。

◇**暮らしの中の小さな感動**
いすみ市に越えてきて、夜空の暗さ、月や星の美しさに改めて気づかされました。自然が多く残っていて、人間らしく暮らせる空間が広がっています。小さな感動があちこちにたくさん散らばっていて、子育てにはとてもいい環境だと思います。



04 波多野 健司さんご一家

【30代、5人家族、千葉県流山市→いすみ市岬町中滝在住】
自然環境の少ない生活が息苦しく、旦那さんの趣味のサーフィンを気軽に楽しみたいということもあって、いすみ市へ転入してきた波多野さんご一家。奥さまが都内へ通勤し、旦那さんが3人のお子さんの面倒を見ながら主“夫”をしています。

◇**「時間と便利をお金で買う」生活からの脱出**
以前は共働きをしていて、休日はストレス発散のため、何かに急かされるようにあちこちへ出かけていました。言わば「時間と便利をお金で買う」ような生活でしたが、それが当たり前だったのです。実際に移住した方の話を見聞きしているうちに、将来や経済的な心配のために現在を諦めるのではなく「今の自分たちにとって心地よいと思える暮らしをしよう」と思うようになりました。そんな中で、自然環境が豊かで程よく便利ないすみ市が気に入り、現在の住居に出会いました。当初は週末だけいすみ市に来る

生活でしたが、子どもの就学を機に、完全にこちらへ生活の拠点を移しました。
◇**子育て環境の変化**
以前は保育園やベビーシッターなど、さまざまなサービスを利用していましたが、時にはその費用がひと月で十万円に達することもあり、一体何のために子どもを預けて働いているのかわからなくなりました。いすみ市に来てからは、子どもと共に過ごす時間が増え、素朴にゆったりと子育てを楽しむことができている。また、地域のみなさんが温かい方ばかりで、色々と気に

かけてくださるので、そうした環境の中で育つということが、子どもたちにとっては良いことなのだろうと思います。
◇**本当に大切なこととは**
新しい生活に対する心配や不安は当然あるかと思いますが、でも、自分たちにとって何が本当に大切なのかということを考えてみれば、答えはおのずから出るのではないのでしょうか。庭で木登りやかくれんぼを楽しむ子どもたちを眺めながら珈琲を飲むひと時が、私たちにとって、今、何にもかえがたい大切な時間になっています。

※インタビュー当時の内容です。

05

せつお
遠藤 節夫さん
みどりさん



【60代、ご夫婦、神奈川県横浜市いすみ市引田（二地域居住）】
いすみ市内に300坪ほどの土地を購入し、横浜といすみを
行ったり来たりしている遠藤さんご夫妻。仕事を辞めてからは
1ヶ月のうち3分の2以上をいすみ市で過ごしています。

◇長年の夢を叶えて
現在は独立している2人の娘も含めて、家族全員がアウトドアが大好きで、昔から「年を取ったら田舎暮らしがしたいね」と話し合っていました。
50代に入って、思い切って土地探しを始め、愛知、山梨、岩手、長野など、あちこち見て回りました。
そんな中でいすみ市内の土地に出会い、2人がイメージしていた広さと、周囲の景観に一目ぼれして迷わず購入しました。

◇いきいきとした暮らし
以前は仕事に追われる日々ストレスを感じ、休日が終わると「また仕事をしなくちゃいけないのか…」と憂鬱だったのが、いすみとの往復生活を始めてからは「今週も仕事を頑張ろう!」と前向きに思えるようになり、生活にメリハリが出てきました。
仕事に区切りをつけ、横浜よりいすみ市にすることが長くなってくると、ご近所や知り合いの方々とお付き合いも頻繁になり、野菜や魚、お米などをもらうことが多

くなりました。
◇自分たちにできることを、楽しみながら
動物性由来の肥料や農薬を一切使わず、糞堆肥などを使って季節ごとに作れるだけの野菜を作っています。自分たちの手で作った野菜の味は本当に別格です。
農作業で手一杯で、外出することはほとんどありませんが、自分たちにできることを楽しみながら、充実した日々を送っています。



07

小森 伸広さん



【50代、単身、神奈川県相模原市→いすみ市岬町榎沢在住】
小学校の教員をしていた小森さん。早期退職していすみ市へ転入してきました。
近所に畑を借りて野菜を作ったり、近くの漁港まで釣りに行ったり、自給自足の生活をしています。

◇海と空に一目ぼれして
昔からダイビングが好きで、いずれは海の近くに住みたいと思い、神奈川や茨城、果ては海外まで移住の候補地として検討していました。
あるとき夏の房総を電車で回っていたのですが、いすみ市の海沿いの風景がとても綺麗で、一目で気に入ってしまいました。
インターネットで知って参加した移住希望者向けの体験プログラムでは、良くも悪くも率直な話を聞かせてもらって、大変参考になりました。
その後、現在住んでいる住宅を購入し、い

すみ市へ転入してきました。
◇家庭菜園を始めて…
退職して移り住んできたので、時間を持て余していたところ、近所の方から声をかけられ、自宅の近くに畑を借りることにしました。
野菜作りの経験など全くなく、勉強しながら育てていますが、天候などの条件に大きく左右されるので、決して教科書通りにはいかないのが難しいところです。タヌキやキョン、ハクビシンなどの害獣の被害を受けることもあります。

最近では近くに住んでいる他の移住者と一緒に田んぼを作って、お米を分けてもらったりもしているので、とても助かっています。
◇まずは決断すること
自分も先輩移住者から言われたことですが、まずは「移住する」ということを決断してください。悩むのは移ってきてからでも遅くありません。
いすみ市ではマリンスポーツだけではなく家庭菜園や炭焼き、陶芸など、楽しめることがたくさんありますよ。



06

関谷 啓太郎さん
早紀さん

【30代、2人家族、三重県度会郡→いすみ市大野】
「誰もが心に持つ“ふるさと”のような懐かしい原風景がいすみにはある。農業を通してたくさんの人にそれを感じてもらいたい」そう考えて2015年いすみ市に移住。ご夫婦で「結農園」を営みお米をつくりながら、市内にある古民家カフェとコラボして田舎体験イベントを行っています。

◇「いすみに呼ばれている!」そう感じた
初めていすみを訪れた時に、自分が会いたいと思っていた人にその日に会えて「いすみに呼ばれている!」そう感じました。いすみは若い人の動きが活発で「みんな地域をつくっていこう」という雰囲気があり、そこにも魅力を感じました。
今私たちが住んでいるいすみ市大野に移り住んだのも、奥さんと一緒に初めて車で通り過ぎた時に、直感で「ここだ!」と感じたことがきっかけです。
ずっと関西でお米づくりをしてきたので、いすみにはツテもなければ家も機械もない

状態でしたが、土地も家も偶然が偶然を呼んでスムーズに手に入り、すんなり移住ができました。
◇背中を押してくれる人がいたから頑張れた
「いすみでお米をつくりたい」そう農業事務所の方に相談した時に、快くGOサインを出してくれたことがすごく心強かったです。
2015年に移住し、初めの1年は市内のお米の大規模農家で1年雇用就農し、2016年に夫婦で結農園を立ち上げました。

◇みんなの“ふるさと”をつくりたい
都会と農村、人と人を結びつけ、みんなの中に“ふるさと”をつくっていきたくらいと思いついた結農園をつくりました。私たちが心をこめてつくるお米は、それを実現していくためのツールだと考えています。
今後は小さくて強い農家のモデルを自分たちが確立して、いすみで新規就農したい方のサポートをしていけたらと思っています。

※インタビュー当時の内容です。

【60代、ご夫婦、神奈川県湯河原町→いすみ市新田野在住】
2007年に、広い庭付のお住まいに越してこられた堀谷さん。木工がご趣味の武美さんは、テーブルや棚など、何でも作ってしまいます。遮るものない田園風景の先に時折横切るいすみ鉄道の黄色い車両が、ご夫婦の大のお気に入りです。



08

堀谷 武美さん
早奈恵さん



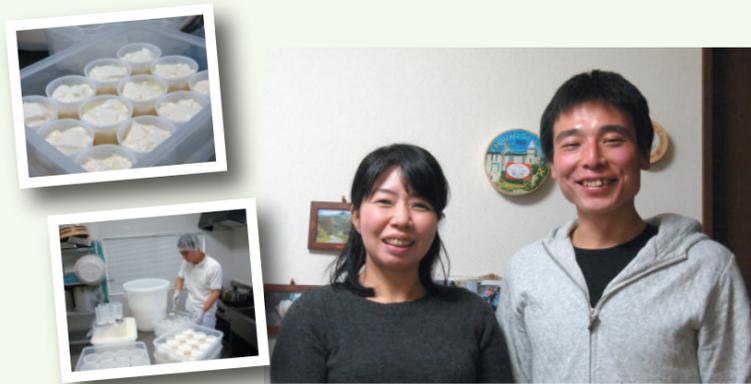
◇「住みやすい場所」を求めて
以前住んでいたところは地理的に傾斜がきつく、年齢を重ねた時にとても住みづらいつと感じていました。移住先を探していた時に不動産業者から現在の物件を紹介され、一目で気に入って購入しました。
私たちの住んでいる地域は余計なものがないので、のんびりと生活するにはとてもいいところです。
時折目の前を通る黄色いいすみ鉄道の車両に、心が躍ります。

◇お裾分けの楽しみ
野菜はすべて無農薬で作っているので、買うことはあまりありません。お店で買うものといえば肉や魚、お米くらいでしょうか。食べきれない分は友人にあげたりしています。地元の方に教わった太巻き寿司や漬け物を振舞うこともあります。友人の喜ぶ顔を見るのも楽しみの一つですね。
◇ご近所との交流
私は散歩するのが好きで、小一時間近所をぶらつくこともあり、散歩の先々でご近所

の方と親しくなりました。皆さんとても親切で、野菜などをやりとりしたり、いろいろな情報をいただいたりしています。
最近では近所の郵便局で知り合いになった方の紹介で、地元のブルーベリー農家さんと知り合いになり、苗木を分けてもらったりもしました。
こうしたご近所付き合いがどんどん広がっていくのは、とても楽しいですね。

※インタビュー当時の内容です。

09 吉見 真宏さん 幸代さん



【30代、ご夫婦、千葉県佐倉市→いすみ市万木在住】

真宏さんは現在いすみ市内の牧場でチーズ作りをされています。いずれは真宏さんがヤギの乳でチーズを作り、幸代さんがそのチーズを使ったお料理を出すカフェを開店したいだそうです。

◇自然と人の温かさに惹かれて
北海道で2年半ほどチーズを熟成・管理する仕事をしたあと、いったん実家のある佐倉市に戻ってきました。その頃、千葉でチーズを作っている人がいるということを知り、その人が住んでいるいすみ市へ会いに行くことにしました。そこで「いすみ暮らしサロン」を紹介されたり、今もお世話になっている方との出会いがあり、初夏の素晴らしい風景と人々の温かさに惹かれて、いすみ市へ移住することを決めました。

ズ工房を立ち上げるところだったので、運よく従業員として雇ってもらえることになりました。
◇将来の夢
将来的にはヤギの乳を使ったチーズを作って、その美味しさを広めたいと考えています。同時に、そのチーズを使ったお料理を出すカフェを併設しようと思っています。そのために土地を探している最中です。地元で同じような仕事をしている方々と、この先も助け合いながらやっていきたいので、いすみ市内で見つかるというのですが



◇いすみ市の景観を引き継いでいきたい
昔から自然が好きなおともあり、主人の実家へお邪魔した際、いすみ市の環境がすっかり気に入ってしまい、移住してきました。農業は、いすみ市の田んぼの景観を引き継いでいくことにも繋がっていきと主人が始めました。農業初心者同士で苦労もありますが、地域の先輩農家さんとの繋がりもでき、助けていただきたくとも多く感謝しています。将来的には、外から来た方がいすみ市で農業をするための橋渡しができたらいいと考えています。

◇農業を始めて
最初は、地域の皆さんと気持ちを合わせて

いくことが難しかったです。地元の農家さんには、ずっと続けてこられた農業方法があり、そこへいきなり周りとは違う方法でお米を作りたいと飛び込んでいくのですから、様々な意見をいただきました。まず大切なことは、地域の方々の信頼を得ることだと感じています。自分の主張ばかりを通すのではなく、周りと共に築いていくためにはどうすれば良いかを考えました。現在は肥料や農薬を使わず、稲本来の力で育てる自然循環米の生産に力を入れています。マニュアルなどない自然を相手にしているので、難しい面もありますが、自然と向き

10 鶴淵 真一さん 修子さん

【30代、ご夫婦、東京都西東京市→いすみ市深谷在住】
いすみ市出身の真一さんと出会い、2011年にいすみ市へ移住しました。現在はお2人で新規就農し、自然循環米等を作っています。

ご夫婦のHPはこちら(つるかめ農園)
<http://farm-share-life.net/>

合っているからこそその充実感を五感を通して感じています。生活面では自給率を高めるべく、鶏を飼ったり野菜や椎茸を育てたりして、暮らしを楽しんでいます。

◇移住を検討している方へ
何を一番大事にして移住をしたいのかを明確にすることが大切だと思います。都会に出やすい方が良い、山奥が良いなど、自分が理想とするライフスタイルを考えてみてください。地域のことも、何となくでもいいので知っておいた方が良いと思います。その土地の文化や習慣がある中で、後から来た者として柔軟に対応していくことも必要だと感じています。

※インタビュー当時の内容です。



食を楽しむ

11 五十川 充博さん ゆかさん

【30代、三重県桑名市→いすみ市山田在住】

いすみ市へ2012年に転入された五十川さんご夫妻。いすみ市で、ジャージー牛を放牧！乳量よりも、チーズに合う牛乳を求めています。

◇自分の居場所を探して
以前は実家のコンビニで働いていましたが、既に作られた製品を販売する、「人工的」なところに違和感がありました。同時にこの頃から「作り手」に関心が芽生え、全国の伝統工芸の後継者が不足している実情を目にしたいと思い、30歳の時に自転車で旅に出ました。その旅の途中で妻のゆかさんと酪農に出会いました。

◇牛が飼える
田舎に住んでいるからこそ「牛が飼える」ので、酪農は大変と言えば大変ですが、好きな事をやっているの、苦にはなりません。都会ではチーズを作ることはできません、牛を飼育したり、餌の牧草まで作ったりすることはできないと思います。まさに「自然豊かな場所」にいることを満喫できます。コンビニ勤務時代は、誰が作ったかわから

ない物を販売していましたが、今は自分達で生産・加工・販売と一貫してやっています。今後は、「ソフトクリーム」や「ピザ」など、その場ですぐに食べられるものが出来たらと思っていますが、まずはしっかりと飼育とチーズ製造の地盤を固めたいです。

◇移住を考えている方へ
「自然が豊か」とは聞こえが良いですが、自然は、自分が思った通りにはなりません。また、「草刈り」などの居住管理が大変だと思います。その「大変なところを楽しむ」余裕が欲しいですね。あとは「虫が家の中にも入る」こともあります。(ゆかさん)

—いすみ市のお勧めポイントは—
「ホタル」が綺麗で、夜、自転車で走っているとあちらこちらに「ホタル」が点在し

ているところがいいですね。あとは「信号が少ない」ところですね。信号で止まってばかりでは走った気分にはなれないので、いすみ市は自転車好きにはたまらない場所です！あとは、やっぱり野菜や魚が「新鮮！」なところですね。(ゆかさん)子育てしながら自給自足が出来たらいいなと思っています。米も作っていますし、最近では「山菜」にハマっています。ぜんまい、わらび、三つ葉、ミョウガなど沢山採れるので楽しいです。



※インタビュー当時の内容です。

12

鈴木 菜央さん

【40代、4人家族、東京都世田谷区→いすみ市岬町桑田】
「地域に根をおろして、自分の生活を自分の手で作れる、持続可能な生活がしたい。」そう考えていすみ市に移住。NPO グリーンス代表・greenz.jp 編集長を務めている傍ら、ゲストハウス、シェアハウスの稼働に向けて動き出しています。



◇移住をする際に重要視した3つの条件
1〜2年色々な所をまわって移住先を探して、最終的にいすみ市に決めました。移住先の条件としては「東京から1時間30分以内であること」「里山があること」「何か事業を始める場合に始めやすくするため土地の値段が安いこと」などを条件としていました。

◇予想外の面白いことがおきました
移住する前に「何が起るかな」と思って、ツイッターで「いすみに移住します」とつぶやいてみました。そうしたら1〜2日後に「歓迎会をするので来てください」と全然知らない方から連絡がありました。そして本当に歓迎会をしてくださいました。あとは「車のバッテリーあがってしまった」とつぶやいたら、家に帰ってきたら修理してくれてあったこともありました。

家族にも変化がありました。東京にいた時は共働きで毎日の生活に必死でしたが、今は家族で過ごす時間も地域と関わる時間も増えて、妻も子どももすごく楽しそうです。

◇自分の暮らしづくりは「趣味」であり「仕事」であり「暮らし」でもあります
現在 NPO グリーンス代表・greenz.jp 編集長を務めています。これからゲストハウスやシェアハウスの運営にもチャレンジします。資金調達のために、クラウドファンディングにも挑戦し、多くの方から知ってもらい、応援してほしいと思っています。ある程度ハード面が出来上がったなら、コンポストトイレづくりや薪ストーブ、自家発電、味噌づくりなども大勢の方々とやりたいと考えています。これからは、みんなで繋がって、豊かで、

持続可能な地域をつくるために力を使いたいです。ゲストハウスやシェアハウスを運営して移住者が増えた時に、助け合いネットワークができるのが理想です。地元と移住者のコミュニティスペースとして、地域に開かれた場所をつくっていきたくと思っています。そこで市民の資するスキルを地産地消で、地域内循環させていきたいです。

◇小さなステップをたくさん踏んで違ったら引き返せばいい
移住が100だとしたら、移住先を初めて訪れた時が2とか3とか。イキナリ10まで進む必要はなく、重要なのは移住を考えている地域を何度も訪れて友達をつくることだと思います。1人面白い人に出会うと、次から次へと面白い人に出会えると思いますよ。



仕事をみつける

14

三星 千絵さん



【30代、単身、神奈川県川崎市→いすみ市作田在住】
理想とする生活と現実の生活との差に違和感を抱きはじめ、自分なりのライフスタイルを求めていすみ市に移住しました。現在は古民家シェアハウス「星空の家」の管理人として活躍しています。

◇都会での生活に対する不安から
就職を機に上京し、がむしゃらに仕事をしているうちに、こんなアンバランスな生活をこの先20年、30年と続けていけるだろうか、という不安を感じるようになりました。それなら、思い切って若いうちから田舎で生活の土台を積み上げていけば、何とかやっていけるのではないかと考え、ちょうどその頃雑誌で見かけたいすみ鉄道の写真に惹かれて、いすみ市に興味を持ち、移住を決めました。

◇いすみで仕事を始めるにあたって
田舎には仕事がない、というのは分かっていたことなので、その中でどうやって収入を得るのか、2年の間にその方法を見つけようと、まずは期限を区切って行動しました。移住してくるときにお世話になった地元のNPO法人にスタッフとして勤めた後、自分ができることを仕事につなげ、小さな稼ぎを複数得ています。

◇自分に合った就業スタイルを見つける
シェアハウスを運営し、日々の暮らしを工夫することで支出を抑え、必要なだけ収入を得る方法を考えています。田舎では職種や仕事内容、雇用条件などで仕事を選ぶのは難しいからこそこの術だと思えます。自分がどんな仕事をしたいのか、どこに価値を見出すのかをはっきりさせておくと、田舎に来てからの仕事の仕方や選び方が変わってくるのではないのでしょうか。



【20代、2人家族、千葉県横芝光町→いすみ市岬町椎木】
「自分らしい野菜をつくりたい！」そう考えて実家のあるいすみ市にUターン。ご夫婦で「農園タロとあき」を営みながら、お米、野菜、エディブルフラワーをつくっています。

13

青木 昭子さん

◇野菜づくりにどんどんはまっていききました
農業大学校に進学して栽培の技術を身につけた後、農業生産法人に就職しました。ここでは梨栽培の農閑期に野菜づくりをしていて、次第に野菜づくりを任せられるようになり、だんだんと野菜づくりの楽しさにはまっていききました。その頃、食べられる花（通称：エディブルフラワー）との出会いも刺激になり、「無農薬で自分の個性が出る野菜をつくりたい」と強く思うようになりました。いすみ市には両親が築いた土台があり農業を始めやすいと考え、地元に戻れば「農地

も比較的容易に集められるかもしれない」と思っていたのですが、実際にUターンしてみても、条件の良い農地を借りることなど、とても大変なことだと気づかされました。

◇“自分らしい”野菜をつくりたい
いすみ市には既にたくさんの移住者や面白いコミュニティが存在していて、都会からもたくさんの人が訪れるようになっています。自分が外に出て行かなくても人が求めている野菜をしっかりとつくっていれば、自分の畑まで人が来てくれるので、そういった人達に直販形式で野菜を売ってい

たいと思っています。今、レストランやカフェのシェフたちに旬の野菜を定期的に箱詰めして送っていて、それがとても喜んでいただけています。夫婦二人で畑をやっていますが規模を広げるには限界があり、従来ある規格などにとらわれず、野菜の味や個性を重視した“自分らしい野菜”を売りにして、あえてそれを選んで買いたいと思ってくれる人のために、心を込めて野菜をつくっていければと思っています。

※インタビュー当時の内容です。



15

野島 幸一さんご一家



【30代、4人家族、埼玉県草加市→いすみ市深堀在住】
「好きなことを仕事にしたい」と考えて、思い切って漁師の世界に飛び込みました。移住してきた人が漁業を始めるというのは、大原漁港が始まって以来なのではないかと言われたそうです。

◇釣り客から漁師見習いへ
大原漁港へは、以前から頻りに釣りに来ていました。釣りが好きで、そこから海に関わる仕事がしたいと思うようになり、釣り客としてお世話になっていた釣り船のオーナーに「漁業がしたい」と打ち明けました。するとそのオーナーが快く話を聞いてくださり、漁師見習いとして働かせてくれることになりました。

◇一人前になるためには

漁業というのは、簡単に始められるものではありません。漁業組合の組合員になるためには、他の組合員に認められるような、ある程度の実績が必要です。そこで、結婚したばかりの妻と2人で、2005年にいすみ市へ引っ越し、4年ほどオーナーの元で修業したあと、独り立ちしました。

◇不安はあるけれど、海が好きだから
最初は独立することができるのか、漁師と

して生活していけるのか不安で、精神的に厳しい時期もありました。現在は釣り客を乗せる釣り船をメインに、お客さんがいない時には漁にも出ていますが、生活は決して余裕があるとは言えません。漁船を持てば維持費もかかりますし、時間が経てば壊れて修理も必要になります。けれど、やはり何といても海が好きなので、できる限りはこの仕事を続けていきたいと思っています。

※インタビュー当時の内容です。

16

御田 亜季子さん ご一家



【30代、3人家族、東京都→いすみ市岬町井沢在住】

北海道出身のご夫妻。お互い別のタイミングでいすみ市へ移住し、移住してきた後にいすみ市で出会い、結婚しました。現在は green+ (グリーンプラス) という、カフェ・雑貨屋・アパートを運営しながら、お客さんや地元の方との触れ合いを楽しんでいます。

◇何度も訪れて
(亜季子さん) 私はずっと東京で働いていたのですが、自然が豊かなところに移り住みたいという思いがありました。インターネットで、東京からほど近く、自然もある場所を探していたところ、いすみ市を知り、それからは、いすみ市へ移住相談に訪れたり、田舎暮らし体験ツアーにも参加しました。いろいろと見させていただいて「なんか良さそうな場所だな」と感じ、本格的に土地を探して引っ越してきました。(勝義さん) 自分はマクロビを実践しているエコビレッジがきっかけでいすみ市へ移住し、当時はシェアハウスに住んでいました。

そのシェアハウスの同居人の元に、妻が度々訪ねてきたのが、二人の縁ですね。

◇地域の方に支えられて
green+ (グリーンプラス) の経営については、ご近所の方々があたたかく見守ってくれているな、と感じています。この辺りは移住された方も多いようで、閉鎖的な感じはありませんでした。むしろ建設中から「いつオープンするの?」「楽しみにしているね」と声をかけていただくことの方が多かったです。オープンの日には区長さんがお花を持って食べに来てくださいました。また、他にも「オープンしたので食べに来たよ」という

方もいました。
◇実際に見て感じる事が大切
「何でいすみ市にしたの?」と、よく聞かれますが、「ピンと来たから」と答えています。理由をあげようと思えば「土地が安い」とか「海もある山もある」とか、いろいろとありますが、やっぱり「なんかいいな」と思うところが大きいですね。自分が「いいな」と思った場所って、必ず何か自分と引き合うものがあると思います。ですから、移住を考えている方は、まずは実際に現地を訪ねることをお勧めします。



18

せきね ゆきさん



【埼玉県川越市→いすみ市在住】
イラストレーターをしている、せきねゆきさん。玄米菜食を主にした食生活「マクロビオティック(以下マクロビ)」をきっかけにいすみ市へ移住。現在は、味噌や糠漬、酵素ジュースなどを手作りし、マクロビ生活、発酵生活を楽しくしています。

◇縁が縁を呼びいすみ市へ
マクロビに興味を持っていたところ、偶然いすみ市でマクロビを実践しているエコビレッジの求人情報を見つけ、まかない担当としていすみ市へやって来ました。そして、さらに偶然なのですが、学生時代に東京で知り合った友人がいすみ市に移住していたことを知り、再び交流を持つこととなりました。今住んでいる家は、その友人のご縁で借りることができたもので、縁が縁を呼ぶということをいすみ市に来てから実感しています。

◇いすみ市での経験を活かして
川越市にいたころは、児童書の挿絵など東京の出版社との仕事を中心でしたが、いす

み市に来てからはローカルな仕事も増えました。やったことが地域の役にたち、いすみ市も私も、より活きるという良い関係が築けていると感じています。

◇ご近所とのお付き合い
いすみ市に来てから、野菜をほとんど買わなくなりました。自分でも栽培していますが、ご近所の方からもたくさんいただいています。いろいろと気にかけていただき、とても有難く感じています。一方、価値観の違いを感じる部分としては、たとえば草刈りについての考え方でしょうか。私は草がある程度伸びていてもあまり気にならないのですが、地元の方は少しでも草が生えればすぐに刈って、まめに手入

れをしていらっしゃる。お互いに主張しすぎることなく、ある程度足並みをそろえたり、違いを認め合ったり、バランスをとることが大切なのかなと感じています。

●せきねゆきさんについて、詳しくはこちら
Twitter: twitter.com/dora_yura



17

内野 美佐さん

【40代、5人家族、宮崎県延岡市→いすみ市岬町在住】
2002年、旦那さんの転勤でいすみ市へ。現在は、クレイアーティストとして活躍する傍ら、地元の小学校で絵本の読み聞かせを行うなど、幅広い活動をしています。

◇今ではいすみ市が大好き
いすみ市へ来るきっかけは主人の転勤でした。でも、今では東京の知人を「いすみ市っていいところだからおいでよ」と誘い、農産物直売所や燈台などを案内しています。野菜は直売所など、いすみ市内で買うようにしています。野菜を作っている方からお裾分けをさせていただいたりすることもあります。子どもたちに旬のものを採れたてで食べさせてあげられて、庭でバーベキューをしたりすることもできるので、いすみ市って、すごくいいところだなぁと思います。

◇クレイアートを創めて
昔から何かモノを作るのも教えるのも好きで、クレイアートはいすみ市へ来てから始めました。今はフリーで活動しているのですが、教室をやっていた頃は「やってみたい」という方は東京近郊に住んでいる方が多く、なかなか習いに来てくれる方がいなくて集客の部分で大変だったので、今はネットショップをやっています。ネットショップは住んでいる場所は関係なく仕事ができること、子どもが帰ってくる時間に家にいることができるので、とてもいいです。

◇良い面ばかりを求めすぎないこと
残念ながら電車賃など交通費が高くなりました。仕事で東京へ行くことが多いので、特にそう感じます。都内では数百円で移動できるので尚更かもしれません。東京に比べれば、ないものはたくさんあります。でも、これがなくて困ったというものは特にありません。東京に行けば刺激がいっぱいあり、東京じゃなきゃできない仕事もありますが、いすみ市に住んで、仕事で東京へ行くというのが、私にとって一番バランスが良いかたちなんだと感じています。

※インタビュー当時の内容です。



19

宇井 里実さん

【20代、いすみ市 在住 (Uターン)】
就職をして、帰省する機会が減ったことでUターンを意識するようになり、田舎の良さを改めて発見したいといすみ市へ戻ってきた里実さん。現在は地元 NPO 団体のスタッフとして勤務し、いすみ市の魅力を発信しています。

◇仕事が決まったことがきっかけ
いすみ市へ戻るときの1番の不安は仕事でした。完全にいすみ市へ戻る前に、何度も仕事を探しに実家へ帰り、いろいろな方から情報をいただきました。仕事が決まったからこそ拠点をいすみ市へ戻すことができたという部分はすごく大きく、仕事が決まらなければ帰ることは出来なかったかもしれません。都会と比べ仕事の種類は少ないかもしれませんが、全くないということはありません。これまでとは異なる新しい仕事を始めるのも選択肢の1つではないでしょうか。

◇感じる都会との違い
都会ではお店が夜遅くまで営業していて、友人と遊ぶことが多くありましたが、いすみ市ではお店の閉店時間が早いため、夜はあまり外出をしません。終電や閉店が早く不便だと思えることもありますが、東京まで特急で70分で行けるので、気軽に気分転換ができます。また、以前に比べて規則正しい生活になり、今は、夜空を舞う源氏ばたのや満天の星空など、いすみ市ならではの大自然を感じて暮らしています。

◇人との繋がりを楽しむ
いすみ市は人との繋がりが強く、私自身、以前は面倒と感じていました。しかし、それも田舎の良さだと気付いてからは、人との繋がりを楽しんで暮らせるようになりました。例えば、移住者の方との出会いが増えたことも嬉しいです。多くの方が日常生活を楽しんでいるように感じます。1人でいすみ市へ来たとしても、誰かと繋がっていくことを日々感じる事ができるのではと思います。

※インタビュー当時の内容です。

藤江 信一郎さん



【60代、いすみ市山田在住】
藤江さんは先祖代々引き継いできた土地で、ブルーベリーやイチジクを栽培するかたわら、農業体験施設としてコテージを営んでいます。これまで多くの移住者と関わってきました。



高原 和江さん

【40代、いすみ市松丸在住（Uターン）】
大学進学と同時にいすみを離れ、東京での仕事を経てUターンしてきた高原さん。現在はシニア野菜ソムリエとして都内や各地で活動するかたわら、地元NPO法人の代表として地域のために活躍しています。



人とつながる

地元の声

◇移住してきた方を受け入れるときに
2011年度から自治会の区長を任せられ、これまでに4組の移住者を受け入れました。移住してこられる方には、いつも心から歓迎する気持ちを伝えています。
地元のことを知らないで来る方がほとんどなので、まずは地元のルールを説明するなどして、少しでも不安を取り除いてあげるように気をつけています。
移住してきた後も、時間を見つけてはお宅にお伺いし、心配なことがないかなど様子を

を聞いたりしています。
そのおかげか、移住してこられた方には自治会にも快く入っていただくことができました。

◇印象的なできごと
以前移住してきた方で、一度は自治会に入ってくださいましたが、地元とのトラブルがきっかけで自治会から抜けてしまったことがありました。その方々は現在も地元に住んでいますが、ご近所との付き合い

はほとんどありません。
「郷に入っては郷に従え」というように、地元としては守ってほしいルールがあるのですが、どうしても受け入れてもらえなかったようです。
考え方や認識の違いなのかな、と考えさせられました。



吉野 通洋さん

【30代、いすみ市岬町中滝在住】
吉野さんは生まれも育ちもいすみ市という、いわゆる生粋の「いすみ人」です。子どもさんが通っている小学校での活動を通して、移住してきた保護者と接する機会が多いそうです。

◇地域へ入るためのお手伝い
分譲地などが多い地域なので、小学校に子どもを通わせている保護者にも移住してきた方がたくさんいます。
移住してきたばかりの方は、どうやって地域に入って行けばいいのかわからないことも多いと聞きます。
せっかくなので同じ地域に引っ越してきてくれたので、みんなで一緒に楽しくやりたいと思い、こちらから積極的に話しかけて地域に入るためのお手伝いをしています。

◇人とつながる楽しみ
以前地元の小学校での地区対抗バレーボール大会に参加した時に、見慣れない保護者がいたので声をかけたことがありました。その際に仲良くなり、その方とはその後も親しく付き合っています。
今そのご家族は、地元の祭りにも進んで参加してくれています。
祭りの装束を揃える時に、どこで何を買いやすいのかわからないというので、地元の商店に案内したこともあります。

地元としても、神輿の担ぎ手が増えるので祭りが賑やかになり、大変嬉しく感じています。



※インタビュー当時の内容です。



崔岡 寿賀子さん

【80代、いすみ市松丸在住】
地元のお母さんたちの団体「夷隅四季の会」の代表を務めている崔岡さん。その他にも着物のリメイクの先生や華道、茶道、油彩画など、積極的に活動をしています。

◇若いころからのモットー
人間の一生とは稲妻のように短いもので、その中で共に生きて共に生活するというのはよほどの縁なのだから、その縁を大事にしたい、という親鸞の言葉を若い頃に本で読んで感銘を受け、それをモットーにしてきました。
ですから、絶対に差別やいがみ合いはしないと決めて、人付き合いをしてきました。外から来た人でもそうです。移住してきた人だからといって、扱いを変えるようなことはしません。
移住してきた方も、外から来た人間だから

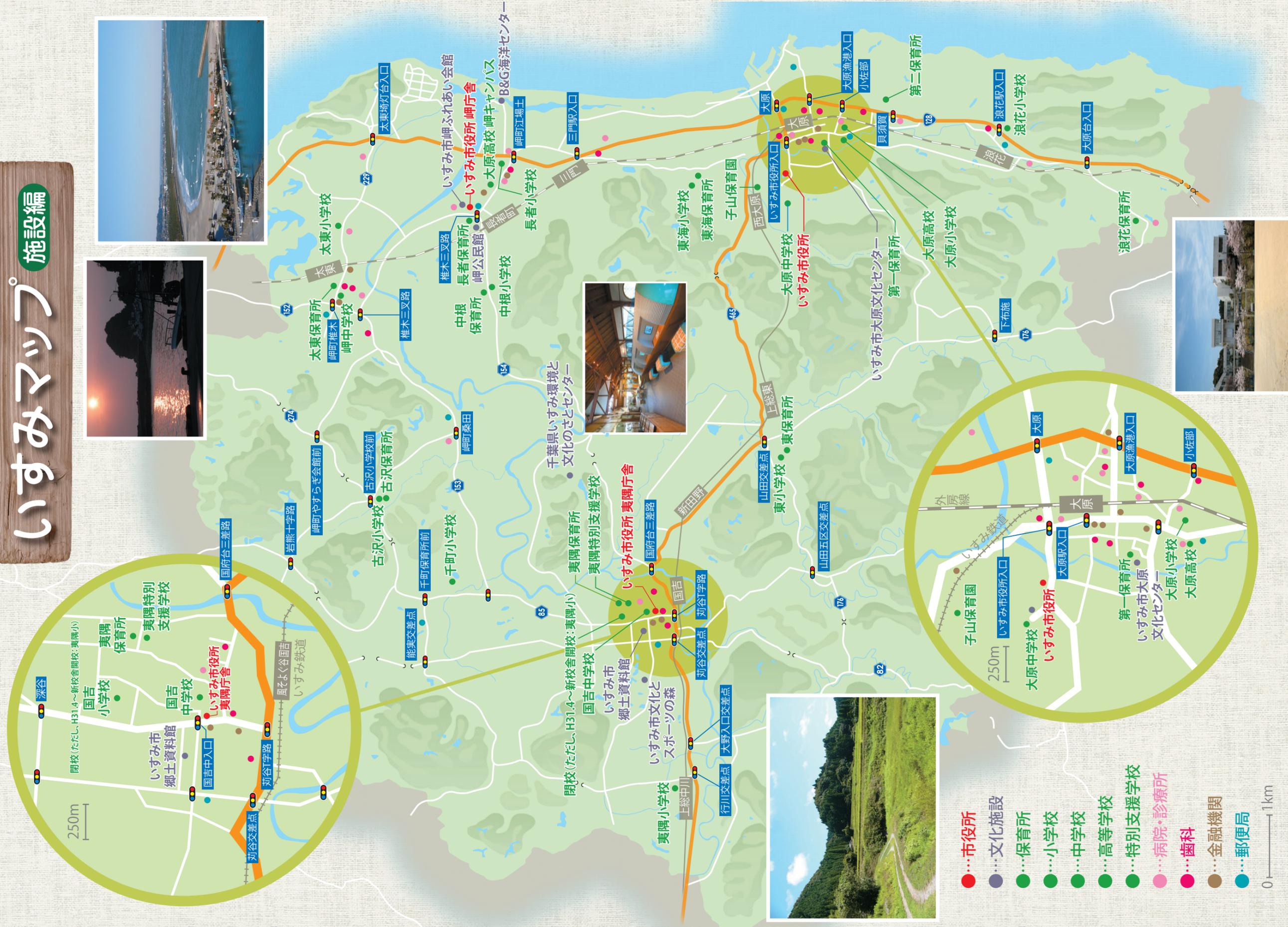
…、と自分のほうから壁を作ってしまうのではなく、どんどん地域の行事などに参加すると、早く地域に溶け込んでいけると思っています。

◇「いすみライフスタイル研究所」との共同事業
地元のNPO法人である「いすみライフスタイル研究所」と、2011年度から保育所跡地を活用して、体験・交流イベントを企画・実施しています。
いすみライフスタイル研究所のメンバーは移住者が多いのですが、皆さんさっぱりと

していてこだわりがなく、付き合いやすいな、と感じています。事業を進める上でもお互いに補い合っていて進めているので、スムーズに進めることができています。
定期的に行っているイベントにも、少しずつお客さんが集まってくるようになりました。
今後もこうした活動を続けていくことによって、若い方も年配の方も、地元の方も外から来た方も、みんなが一緒に楽しくお茶を飲めるような、そうした場所を作っていきたいと思っています。

※インタビュー当時の内容です。

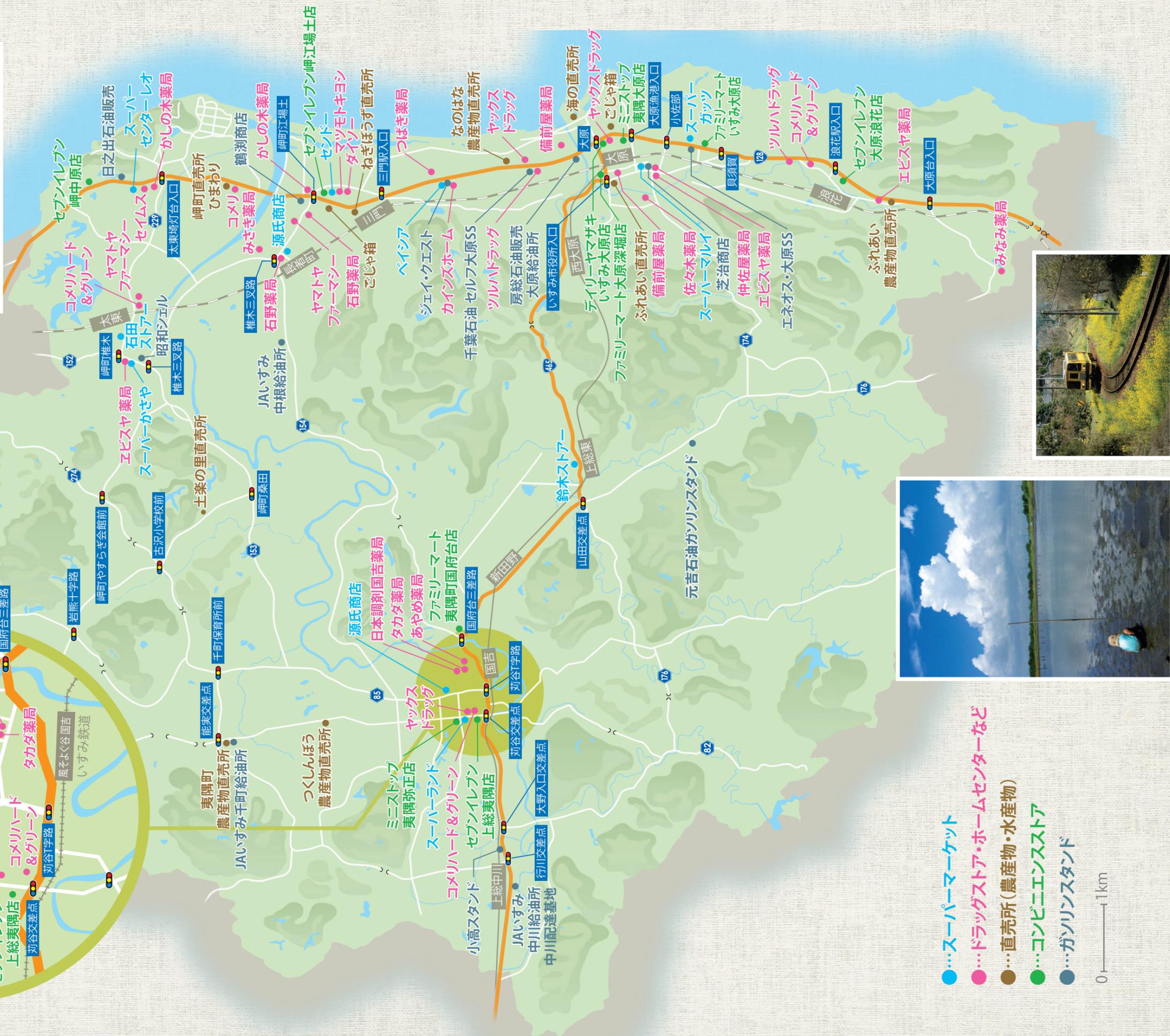
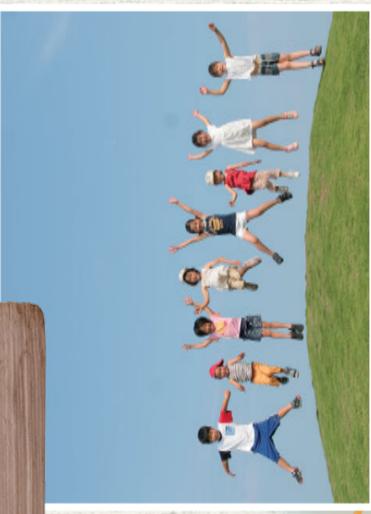
いすみマップ 施設編



- 市役所
- 文化施設
- 保育所
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 特別支援学校
- 病院・診療所
- 歯科
- 金融機関
- 郵便局

0 1km

いすみマップ くらし編



いすみ市ってどんなところ？



いすみ市は、千葉県の東南にあって、なだらかな丘陵地と起伏に富んだ海岸線を持つまちです。2005年12月に、夷隅町と大原町、岬町の3町が合併して誕生しました。年間を通じて暖かく降雪はまれで、積もっても数センチ程度です。沿岸地域の平坦部と内陸部では米や野菜の生産や畜産などが営まれ、親潮と黒潮が交わる沖合いには良好な漁場があることから、イセエビやタコ、ヒラメなど、豊富な海の幸に恵まれています。



面積 157.44平方キロメートル
人口 39,762人 [男:19,515人 女:20,247人]
世帯数 16,865世帯

【平成28年4月1日現在】
《東京都心からいすみ市へのアクセス》
 電車の場合：東京駅→大原駅(特急利用で約70分)
 車の場合：①京葉道路→千葉東金道路(東金IC)→東金九十九里有料道路→九十九里有料道路(一宮終点)→国道128号線(約100分)
 ②東京湾アクアライン→圏央道(市原鶴舞IC)→国道297号線(大多喜町経由)→国道465号線(約90分)

いすみ市で暮らす

いすみ市は子育て支援が充実したまちです。子育て支援課が子育て支援センターや子育て支援室を設けて、子育て支援を行っています。また、子育て支援課が子育て支援センターや子育て支援室を設けて、子育て支援を行っています。



『育てる』

～子育て環境千葉県一をめざして！～
 「子育て環境千葉県一」を目指すいすみ市では、誰もが安心して子どもを生み、健やかに育てることができるような子育て支援に努めています。※それぞれの事業の詳細につきましては、担当課へお問い合わせください。

<p>福祉課 ☎0470-62-1120</p> <p>市で行っている子育て支援事業に関しては、別途「子育てガイドブック」を配布しています。</p>	<p>放課後児童クラブ 小学校1年生から6年生までの共働き家庭など、昼間保護者がいないお子さんを受け入れます。</p> <p>子育てヘルパー派遣 子育てヘルパーを派遣することで、家族の精神的・肉体的負担の軽減を図ります。</p> <p>医療費の助成制度 出生から高校3年生(各種学校含む)までの医療費を助成します。</p>	<p>病児保育 生後6か月～小学校6年生までのお子さんが、病中や病気の回復期にあって、保護者が仕事や冠婚葬祭などにより保育ができないとき、一時的にお子さんを預かります。</p> <p>保育時間 保護者の就労形態の多様化に伴い市内公立の全保育所(10カ所)において、通常の保育時間内に保育できない方のために、午前7時から午後7時まで保育を行っています。</p>
<p>健康高齢者支援課 ☎0470-62-1162</p>	<p>歯っぴー健診 1歳～4歳までのお子様の歯科健診とフッ素塗布を行い、むし歯の予防を図ります。</p> <p>不妊治療費助成 不妊治療に要した医療費の一部を助成します。</p> <p>任意で行う予防接種の費用助成 ロタウイルスやおたふくかぜ、インフルエンザなどの予防接種を任意で受けた場合、費用を助成します。</p>	<p>こども急病電話相談 急な病気で、今すぐに受診させた方が良いのかお迷いの時、看護師や小児科医がアドバイスします。 プッシュ回線の固定電話・携帯電話からは、局番なしの #8000 ●相談日時… 毎日夜間午後7時～翌午前6時 ※ダイヤル回線、光電話、IP電話、銚子市からは ☎043(242)9939【千葉県・千葉県医師会】</p> <p>新生児聴覚検査費助成 聴覚検査に要した費用の一部を助成します。</p>
<p>学校教育課 ☎0470-62-3621</p>	<p>奨学資金・入学準備金貸付制度 お子さんが高校・大学等に進学するために必要な学資を貸し付けます。(無利子) ※貸付には審査があります。</p>	<p>学校給食費補助 第3子以降の学校給食費補助 お子さんが3人以上いる場合、3人目以降のお子さんにかかる学校給食費を補助します。※補助を受けるには条件があります。</p>

*小学校・中学校への転入・転出の手続きについては、学校教育課へお問い合わせください。

『支える』

～高齢者や障害者が
いきいきと暮らすために～

【高齢者のために】

健康高齢者支援課
☎0470-62-1118



高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らし続けられるように、健康づくりや生活の支援を行います。

孫の手生活援助

在宅の75歳以上の高齢者世帯の方に対し、日常生活上の軽易な作業を援助するとともに、その費用の一部を助成します。

独居者等介護用品支給

在宅で要介護状態にあり、常時介護用品を使用する同一世帯に介護する家族のいない独居者等に対し、経済的負担の軽減や在宅福祉の増進を図るため、介護用品を購入できる給付券を交付します。

家族介護用品支給

在宅で要介護状態にあり、常時介護用品を使用する者を介護している家族に対し、経済的負担の軽減や在宅福祉の増進を図るため、介護用品を購入できる給付券を交付します。

高齢者救急医療情報キット配布

病気や災害時等に迅速かつ適切に救急医療活動を受けられる体制を整えるため、65歳以上のひとり暮らし又は高齢者世帯の方を対象に、救急医療情報キットを希望者に無料で配布します。

見守りあんしん電話

身体に不安のあるひとり暮らしの高齢者に対し、見守りあんしん電話装置一式を自宅に設置して在宅時の見守りをします。

【障害者のために】

福祉課
☎0470-62-1117

市で行っている障害者支援事業については、別途「障害福祉ガイドブック」を配布しています。



「障害者総合支援法」に基づき、障害をお持ちの方が安心して生活できるようにお手伝いをします。

介護給付・訓練等給付

ホームヘルプサービス、生活介護、短期入所、施設入所、就労移行支援などのサービスを提供します。

補装具の交付・修理

身体に障害のある方に、車いす、義肢、補聴器などの補装具を交付、または修理します。

日中一時支援

障害をお持ちの方の日中における生活の場を確保し、家族の就労支援と介護の負担軽減を図ります。

福祉カー貸し付け

車いすに乗ったまま乗車できる車を無料で貸し出します。

日常生活用具の給付・貸与

身体に重度の障害がある方に、特殊寝台や入浴補助具、拡大読書器など必要な日常生活用具を給付、または貸与します。

訪問入浴サービス

入浴困難な寝たきりの身体障害者および障害児を対象に、入浴車を派遣し、居宅において入浴サービスを行います。

難聴児補聴器購入費助成

身体障害者手帳の交付対象にならない軽度の難聴児に、補聴器を購入する場合、購入費の一部を助成します。

重度心身障害者(児)医療費助成制度

重度の障害を持った方への医療費の助成を行います。対象者は、身体障害者手帳1・2級及び療育手帳A-1・A-2及びA-1・A-2の方です。ただし、65歳以上で新規に該当した場合は対象外です。

『守る』

～安心して暮らすために～



毎月5日は、いすみ市
市民防災の日

市では毎月5日を市民防災の日と定め、「ゆれたらにげる より遠くへ より高台へ」を地震・津波の合言葉とするなど、災害に対する防災意識の高揚と、地域や家庭での自主的な防災活動を推進しています。

その一環として

●洪水・津波ハザードマップ ●地震防災マップ

などを作成し、市民のみなさんに配布しています。また、防災行政無線の戸別受信機を配布し、情報の迅速な提供に努めています(新規設置の場合有料)。

詳しいお問い合わせは…危機管理課 ☎ 0470-62-2000

放射線量等
の測定

市民のみなさんの安全のため、農水産物や水道水、土壌等の放射線量を定期的に測定し、市ホームページ等で公開しています。

『住む』

～新しい生活のお手伝いをします～

建設課
(都市整備班)
☎0470-62-1204

木造住宅耐震診断補助金

昭和56年以前に建てられた木造住宅の耐震診断を行う場合、必要な経費の一部を補助します。



環境水道課
☎0470-62-1385

家庭用小型合併浄化槽設置補助金

単独処理浄化槽または汲み取り便所を合併処理浄化槽に取り換える方に対し、経費の一部を補助します。



住宅用太陽光発電システム設置補助金

住宅用太陽光発電システムを設置される方に対し、経費の一部を補助します。

定置用リチウムイオン蓄電システム設置補助金

定置用リチウムイオン蓄電システムを設置される方に対し、経費の一部を補助します。

企画政策課
☎0470-62-1382(企画班)

市内バス交通

- ・市内循環線：市内3地域(夷隅・大原・岬)を結ぶバス運行を行っています。
- ・いすみシャトルバス：夷隅地域と茂原駅を結ぶバス運行を行っています。
- ・デマンド交通(乗合タクシー)：事前の予約に応じ、市内3地域(夷隅・大原・岬)ごとの運行区域内であれば自宅から目的地まで運行します。



住まいに関する情報

1 いすみ市若者世帯 定住促進家賃補助金

いすみ市では、定住促進を図るため、定住する若者夫婦に対し、若者夫婦が賃貸住宅の所有者に支払う家賃の一部について補助金を交付します。

- 補助対象要件** ※すべての条件を満たす者
 - ・平成27年4月1日以降にいすみ市に移住し住民登録すること。
 - ・申請日において、夫又は妻のいずれかが満40歳以下の夫婦。
 - ・申請日前1年以内に婚姻届を提出し、夫又は妻のいずれかが世帯主となっている世帯。
- 補助対象者** ※すべての条件を満たす者
 - ・いすみ市内の賃貸住宅に住所を有し賃貸借契約を締結していること。
 - ・月額3万円以上の家賃を支払う者。
 - ・賃貸住宅に住所を有した日以後2年以上いすみ市に定住する意志のある転入若者夫婦であること。
 - ・世帯の全員に市民税等の滞納がないこと。
 - ・世帯の全員がいすみ市暴力団排除条例に規定する暴力団及び暴力団員等でないこと。
 - ・生活保護法による保護を受けていない世帯であること。
 - ・世帯員に外国人を含む世帯の場合は、出入国管理及び難民認定法その他の法令に基づき、日本国に永住権を有している者。
 - ・世帯員が過去に同種の補助金等の交付を受けたことがある者又はその者と同一の世帯に属していた者でないこと。

- 補助金額**
1世帯につき月額1万円
※夫婦のいずれかが転入者である世帯は月額5000円を1年間加算

- 補助対象期間**
2年間を上限とします

【お問い合わせ】
いすみ市水産商工課
移住・創業支援室
TEL0470-62-1332



2 いすみ市転入者等 特急料金券購入補助金

いすみ市では、いすみ市への定住人口の増加を図るため、JR外房線を利用する通勤者及び通学者に対し、特急料金券の購入に要する費用の一部について補助金を交付します。

- 補助対象者** ※すべての条件を満たす者
 - ◇**通勤者**
 - ・平成27年3月1日以降にいすみ市に転入し、いすみ市の住民基本台帳に記載されている者。
 - ・JR外房線の区間を含む定期券を購入し、特急列車で通勤する者。
 - ・市税等の滞納のない者。
 - ◇**通学者** (H28.4.1から対象) ※すべての条件を満たす者
 - ・いすみ市の住民基本台帳に記載されている者。
 - ・平成28年3月1日以降にJR外房線の区間を含む定期券を購入し特急列車で通学する者。
 - ・世帯の中で主に生計を維持している者に市税等の滞納がないこと。

- 補助金額**
特急料金券の購入(定期券の通用期間内に購入したものに限り)に要した経費とし、補助金の額は補助対象期間内に購入した特急料金券1枚につきその購入金額の2分の1の額(その額に100円未満の端数がある場合は、その端数を切り捨てた額)とし、1万円を上限とします。

- 補助対象期間**
3年間を上限とします

5 空き家バンク制度

「空き家バンク制度」とは、居住していない戸建て住宅を賃貸物件として登録し、市内への移住・定住を目的として利用を希望する方に紹介を行うマッチングシステムです。
市内に点在している空き家物件を1軒でも多く活用してもらうことで、移住・定住の促進を図り、地域の活性化につなげたいと考えています。



3 いすみ市通勤通学用駐車場 利用補助金

いすみ市では、JR外房線の利用の促進並びにいすみ市への移住及び定住の促進を図ることを目的として、いすみ市に転入し、JR外房線を利用して通勤又は通学する者が負担する駐車場の利用料金の一部について、補助金を交付します。

- 補助対象者** ※すべての条件を満たす者
 - ・通勤通学用駐車場を月極めで利用している者。
 - ・定期券を利用して通勤又は通学している者。
 - ・平成28年3月1日以降に転入した者であって、本市に住所を有し、かつ、現に居住している者。
 - ・市税等の滞納のない者。

●補助対象となる駅

浪花駅、大原駅、三門駅、長者町駅、太東駅、上総一ノ宮駅

●補助金額

1ヶ月あたり3,000円(駐車料金が3,000円に満たない場合はその額)

●補助対象期間

2年間を上限とします

4 いすみ市移住定住支援 補助金

いすみ市では、移住の促進及び定住化を図ることを目的として、いすみ市内に転入した者に対し、移住定住支援補助金を交付します。

- 補助対象要件**
いすみ市以外の市区町村に居住していた者が、5年以上居住する意思を持っていすみ市内に居住を定め、いすみ市の住民基本台帳に登録され、かつ、生活の拠点をいすみ市に置くこと。
- 補助対象者**
平成28年4月1日以降にいすみ市に移住定住した世帯の世帯主が満40歳以下の者であって、次のすべての条件を満たす者。
 - ・いすみ市に移住定住する日前1年間に、いすみ市の区域内に住所を有していないこと。
 - ・世帯員のいずれにも市税等の滞納がないこと。
 - ・世帯員の転勤、福祉施設への入所、医療施設への入院等を主な目的とした移住定住でないこと。
 - ・世帯員のいずれにも暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律に定める暴力団その他の反社会的団体及びそれらの構成員と密接な関係がないこと。
 - ・過去に補助金の交付を受けた世帯に属していないこと。
- 補助金額**
1世帯3万円(1回限り)
※同一の世帯に属する子ども(15歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者)と同時に移住定住するときは、子ども1人につき1万円を加算します

「空き家バンク制度」の流れ

「空き家見学会」で家さがし

いすみ市への移住を検討されている方を対象に、定期的に「空き家見学会」を開催しています。空き家バンクに登録されている物件以外にも、市内の様々な物件を見ることができます。また、市内をぐるりと回るため市全体の様子を知ることができますので、地域を知るための参考にはいかがでしょうか。

こんな方が利用しています!

夷隅地域	7K築36年の物件(月額45,000円) ⇒30代ファミリーがご成約
大原地域	3DK築35年の物件(月額65,000円) ⇒30代ファミリーがご成約
岬地域	6LDK築20年の物件(月額70,000円) ⇒40代ファミリーがご成約

◆空き家バンク 成約例◆

★お試し居住
移住希望者に1週間以内で市内に滞在していただくお試し移住を実施しております。

★移住セミナー
首都圏などで移住セミナーを実施しております。

★体験交流ツアー
移住希望者に体験交流ツアーを実施しております。

いすみ市で住まいをお探しなら…

市では、市営住宅の管理を行うとともに、空き家バンク制度を設置しています。
その他のいすみ市内の賃貸・売買物件に関しては、市内の不動産業者に直接お問い合わせください。

●社団法人千葉県宅地建物取引業協会 南総支部 外房地区(いすみ市内)  …ウェブサイトがあります。

商号又は名称	事務所所在地	電話番号
株式会社新清ハイツ 	いすみ市弥正267-4	0470-86-4590
有限会社高師工務店 	いすみ市弥正486-1	0470-86-5400
御宿土地(株) 	いすみ市日在1575-2	0470-62-3611
国吉屋不動産(株) 	いすみ市日在2410	0470-62-4141
株式会社慶興総建 	いすみ市大原10095	0470-62-0354
正二土地	いすみ市大原1318	0470-63-0001
住友総館(株)	いすみ市深堀353	0470-63-0099
有限会社大栄不動産	いすみ市大原7806-1	0470-62-3471
株式会社太公望商店	いすみ市日在2411	0470-62-2500
大志プロパティ(株)	いすみ市日在2425-30	0470-63-1171
DAISO 	いすみ市大原11214-8	0470-62-3385
株式会社東昭開発 	いすみ市日在2133-2	0470-63-1580
株式会社日商 	いすみ市大原8749-5	0470-63-1052
有限会社ビゼン 	いすみ市日在1875	0470-63-0767
有限会社平成不動産 	いすみ市大原9709-1	0470-63-0003
有限会社房総興産 	いすみ市若山1192-6	0470-63-0566
明正不動産(株) 	いすみ市若山114-1	0470-63-1811
有限会社エルフ住宅設計 	いすみ市岬町江場土533-1	0470-87-3018
株式会社おおたか不動産	いすみ市岬町椎木348-3	0470-87-3417
有限会社三景エステート 	いすみ市岬町江場土4470-1	0470-87-4163
株式会社新千葉東和 	いすみ市岬町長者30-9	0470-87-4311
有限会社外房土地情報センター 	いすみ市岬町江場土4441-1	0470-87-4408
有限会社南海不動産 	いすみ市岬町三門1857-2	0470-87-4331
南房土地(有)	いすみ市岬町中原169	0470-87-7531
有限会社双葉建設	いすみ市岬町江場土1567-1	0470-87-8011
有限会社岬地所	いすみ市岬町椎木1436-1	0470-87-7141
有限会社酒井建築 	いすみ市岬町和泉2023-3	0470-87-9770
株式会社香里風 	いすみ市岬町江場土4504	0470-80-3888
有限会社渡邊土地建物 	いすみ市岬町江場土544	0470-87-7799



『相談』

各種お問合せ窓口をご活用ください。

 …ウェブサイトがあります。

●求人情報について

ハローワーク(公共職業安定所)では、雇用に関する相談・支援や職業の相談・紹介などを行っています。

【ハローワークいすみ】 ☎0470-62-3551 

●起業に関するご相談

自分で新しく仕事を立ち上げたい、融資の情報が欲しいという方は、下記へお問い合わせください。

【水産商工課 移住・創業支援室】  ☎0470-62-1332

【いすみ市商工会】 ☎0470-62-1191 

●漁業に関するご相談

漁業を始めるための手続きなどが知りたいという方は、下記へお問い合わせください。

【水産商工課 水産商工班】  ☎0470-62-1119

【夷隅東部漁業協同組合】 ☎0470-62-0111 

●農業に関するご相談

新しく農業を始めたい、地域の現状を知りたいという方は、下記へお問い合わせください。

*農地の賃貸借・取得に関すること
【農業委員会】 ☎0470-62-1281 

*農業の経営に関すること
【農林課】 ☎0470-62-1280 

*新規就農・施設整備等への事業・融資に関すること
【夷隅農業事務所 企画振興課】  ☎0470-82-4956

*地域の農業に関すること
【JAいすみ 営農販売課】 ☎0470-86-3715 



万木城址公園



見る



●絶景ポイント

「万木城跡公園」展望台からは広大な田園風景が、「太東埼灯台」からは太平洋といすみ市の海岸線が一望できます。

●波の伊八

「波を彫ったら天下」と言われた江戸時代の宮彫師、「波の伊八」と武志伊八郎信由の作品が、市内には数多く残されています。



●源氏ぼたるの里

毎年5月下旬から6月中旬にかけて、暗闇にふんわりと浮かび上がる、源氏ぼたるのひかりをみることができます。



●お祭り

秋には市内各所でお祭りが行われますが、中でも「大原はだか祭り」は神輿を担いで海に入る勇壮な「汐ふみ」が見どころ。

観光情報に関するお問い合わせは…
オリンピック・観光課 ☎0470-62-1243



●器械根イセエビ(伊勢海美)

いすみ市沖の器械根で漁獲される伊勢海美は商標登録済のブランド名称。水揚げは、日本有数で刺身でも、焼いても味噌汁にしても最高です!!



●器械根アワビ

マダカアワビは生息地域が限られ、採捕量が極めて少ないことから、幻のアワビとされています。



●器械根サザエ

アワビにも負けないくらいおいしい味が自慢のサザエ。つば焼きでも刺身にしても最高!!

ブランド認定委員会事務局
(水産商工課内) ☎0470-62-1119

いすみブランド認定産品

数々の厳しい条件をクリアしたブランド産品

北緯35度12分・東経140度25分と北緯35度18分・東経140度28分を結んだ線より沖で漁獲された器械根イセエビ(伊勢海美)＝大きさ200グラム以上のもの、器械根サザエ＝大きさが300グラム以上のもの、器械根アワビ＝マダカアワビは殻長18cm以上、メガイアワビは殻長16cm以上のもの。



●いすみの沖ダコ(太東・大原産)

いすみ市沖で漁獲される沖ダコは、タコツボ漁で漁獲され、南三陸周辺の岩礁帯で夏場に成長したマダコは11月頃に群れを作り、南下しながら産卵のため、12月前後に器械根周辺に移動するとされています。産卵期前に栄養分を蓄積するためにエビ、カニ、貝類を主な餌としており、身は柔らかく、甘みがあり味わい深い旨味が特徴です。



●特別栽培米「いすみっこ」

「いすみ米」本来の魅力を最もよく味わえるお米として、「いすみっこ」は品質の基となる「土」を大切に、農業や化学肥料を全く使わずに作られています。



●浜ゆでだこ

■浜ゆでだこ(カット)
たこを昔の製法により、茹でる時間を長くし、やわらかく食べやすいかたさに茹であげ、真空にしてあります。
■たこのやわらか煮
たこをやわらかく煮て、醤油・味噌・砂糖・酒で味付けし、真空にして殺菌してあります。
■たこのカルパッチョ
たこを半生に煮て、カルパッチョで食べられるよう加工し、真空にしてあります。



●純米AFS生

(じゅんまいアプス生)
日本酒 純米酒 生酒
従来の日本酒にはないライト感覚で楽しめる日本酒。いすみ市内で収穫された千葉県産酒造好適米「総の舞(ふさのまい)」を全量使用。本戸泉酒造独自開発の「高温山廃一段仕込み」。



●いすみの地だこスライス(生)

たこ飯の具から揚げしゃぶしゃぶ用として幅広い活用ができる商品です。

●いすみの茹で地だこ

この茹でだこは、いすみ市沖で栄養を蓄え漁獲された生ダコを、先代から引き継いだ独自の製法で茹で上げ、噛めば噛むほど甘みが出るのが特徴です。

移住にまつわるあれこれ、お答えします!!



Q 敷地内で野菜が作れるような物件を探しているのですが…

A 不動産物件については、P23「市内不動産業者一覧」に掲載されている不動産業者に直接お問い合わせください。また、市では「空き家バンク制度」により物件を紹介しています(賃貸のみ)。

Q 田舎の暮らしになじめるか心配です。

A あれこれ思い悩むよりも、まずは実際に地域を訪れ、地元の方と触れあってみましょう。移住相談案内所「いすみ暮らしサロン」では、移住に関する相談を受け付けています。相談員には先輩移住者もいらっしやいますので、実際の体験を聞くこともできます。



Q 田舎では車がないと生活できないと聞きますが…

A 地域によっては、徒歩圏内に必要最低限のお店が揃っている所もあります。住まいを探される際には、住居周辺の生活環境も十分に確認されることをお勧めします。

Q 新しく仕事先を見つけたいと思っていますが…

A 都市部に比べると職種や求人数は限られていますが、就業エリアを広げて検討した方がよい場合もあります。また、就農や起業など、新しいライフスタイルを志す方もいます。



Q 生活費はどのくらいかかりますか?

A 具体的な金額は世帯の状況によってまちまちですが、こちらで新しく仕事を始められた場合、一般的には収入が減少する反面、食費や住居費などが安くなるケースが多いようです。また、「自治会費」や「区費」といわれる地域活動の運営費や地域独自の消防組織の維持費、お祭りを行うための費用など、田舎特有の出費がかかることを忘れてはいけません。これらの費用を払うかどうかは任意ですが、ご近所との付き合いをする上では、避けて通れない出費と考えた方がよさそうです。

いすみ流 移住・定住の心得8か条

ご参考までに…

新しい生活を始めるにあたって、地域に馴染むことができるかどうかというのは大きな問題です。ご近所との付き合いをスムーズに始めるために、地域に溶け込むための心構えをまとめてみました。

1 心得

早寝早起きを心がける

田舎の生活スタイルは基本的に朝型です。深夜の騒音を控えるなど、ご近所へ十分な配慮をしましょう。

2 心得

必ずしも悠々自適の生活ではない

田舎でのんびりと…とは良く言いますが、田舎暮らしに馴染めば馴染むほど、暮らしに係わるご近所の用事は意外と多くなるものです。

3 心得

普段のあいさつは絶やさずに

新しく入ってきた人に対して、地域の人々は興味津々。普段からあいさつを交わして親しくなると、役に立つ情報を教えてもらえることも。

4 心得

郷に入っては郷に従え

その地域において古くから伝わってきたルールには、れっきとした理由があるものです。

5 心得

聞くべき事は聞く、言うべき事は言う

地域のルールを理解したうえで、それでも納得できないことがあったら、遠慮せずに相手に話してみましよう。ただし、ケンカ腰はトラブルの元になりかねませんから、穏やかに。

6 心得

新しいコミュニティを楽しむ

家族ぐるみでのお付き合いやお裾分けのやり取りなど、地域に根付いたコミュニティを楽しむことこそ、田舎暮らしの醍醐味というものです。

7 心得

ご近所付き合いは面倒がらずに

田舎の近所付き合いはとても密なものなので、初めは煩わしく感じるかもしれません。しかし決して悪意があるわけではないので、大らかな気持ちで接することが大切です。

8 心得

役職を引き受けると、地域に認められる

「区会」「自治会」といった住民主体の組織では、祭りや清掃、その地域での生活のルールを住民自身が決めていきます。こうした組織に積極的に参加し役職を務めることで、地域の一員として認められることも。